

コーポミらい くらしと地域づくり助成

【対象団体及び分野】公益を目的とした団体で、埼玉県、千葉県および東京都に活動拠点があり、すでに活動している団体。①食・食育 ②消費者の権利 ③福祉、健康 ④子ども・子育て、次世代支援 ⑤教育、文化、スポーツ ⑥環境保全 ⑦地域社会参加、行政との連携、NPO・NGOとの連携 ⑧人権、平和、国際協力・交流 ⑨防犯・防災、災害支援の分野。

【助成金額】1団体10万円を上限。活動・事業計画予算額の半分。

【対象事業期間】2015年3月21日～2016年2月末日

【〆切】11月14日（金）当日消印有効

【問合せ】

http://mirai.coopnet.or.jp/info_cam/jyoseikin/

東京都・セブン・イレブン記念財団 東京の緑を守ろう
プロジェクト

【対象事業】今ある緑を守る活動、まちの緑を増やす

活動や緑とのふれあいを促進する市民活動

【対象事業期間】2015年3月1日～2016年2月29日

【助成金額】3年間助成：年間30万円までを最長3年間 単年度助成：年間10万円まで

【〆切】12月10日（水）消印有効

【問合せ】一般財団法人セブン・イレブン記念財団 東京の緑を守ろうプロジェクト助成係 ☎03-6238-3872 FAX 03-3261-2513 <http://www.7midori.org>

★特別企画：「みどりのコトはじめフィールドサロン」世田谷を拠点に、都市型のコミュニティガーデンをつくる活動をしている「たぬき村」を尋ねます。そのプログラムの中で、本助成事業の紹介と質疑応答の時間があります。

【日時】11月3日（月・祝）14:00～17:00

【場所】たぬき村（世田谷区）【定員】25名

【参加費】無料

【問合せ】東京の緑を守る将来会議(NPO birth)内

☎042-439-5132 E-mail:info@tokyo-midori.net

特集みこしプロジェクト第1弾「ヤキイモタイムからはじまるつながりのはなし」のその後のはなし

5月17日（土）に実施したみこしプロジェクトのイベントでの交流がきっかけで、夏休みにひとつの動きがありました。主催者のひとり、細江学さんにお話を伺いました。

実家近くの津田町に引っ越してきた細江さん。ボイスカウト時代の幼なじみ・菊池琢さん直美さんご夫婦とご近所になり、交流が再開。自治会のつながりが疎遠になってきていることが話題にあがり、「何かイベントができたらいいね！」と話していたそうです。

そんな時に参加した上記『ヤキイモタイム～』で小平はぐくみプロジェクト（通称“こだはぐ”）メンバーと知り合い、「何か一緒にできたらいいね！」と連絡先を交換。「お父さん達にも活躍してもらいたい！」と思っていた“こだはぐ”メンバーとの間で、「地域の子どもたちに夏休み最後にとびっきりの思い出をあげよう！」と、8月30日（土）に子どもキャンプ場でイベントをやるべく話が進み、6月頃から準備をスタート。バーベキューをちょっと大きくしたノリでB・BBQ（ビッグバーベキュー）大会とし、焼きそば・焼き鳥だけでなく、流しそーめんやスイカ割り、小平市出身のジロー今村氏によるパフォーマンス、日没時のキャンプファイヤーまで、一日たっぷり使ったイベントになりました。心配していた雨にも降られず、当日参加のパパたちにもいろんな係を割り振って手伝ってもらい、200名弱の親子で大いに賑わったそうです。「少しで帰ろうと思ってたのに、楽しくて帰れなくなった！」という来場者の声や、「今度は計画段階から参加したい！」という当日のみお手伝いの人の声は大成功の証でしょう。

実施までの約2ヶ月間に3回の実行委員会（実行委



員10人）を開き、その間の連絡手段は今どきの若い世代らしくLINE。とはいって、企画書を作ったり段取りや諸々の手配を考えたりと、夜な夜な細江＆菊池夫妻が打合せたと聞き、日中は仕事に忙しいパパたちが地域でこのようなイベントを実施することは結構大変だったろうと思いました。でも、「積極的にパパたちにも関わってもらうことで、我が子やその友達、そしてその親たちと交流しよう」という目的で実施されたこのイベントは、まさしく上記『ヤキイモタイム～』で聞いたことを実践に移したものと言えましょう。そして、もうひとつの目的である「今後、自治会でのお祭り開催に向か、経験値の向上」も達成できたようで、細江＆菊池コンビの間では自治会での顔の見える関係づくりに向けて密かに何か計画が進んでいたようでした。

みこしプロジェクト第1弾のイベントでは、年代も経験も考え方も違ういろんな人達が集い、自己紹介し合って知り合うという、いたってシンプルな企画を実施しました。その結果、そんな場でなければ出会わなかつたであろう人たちが出会つたり、このB・BBQ大会のような展開が見られたことは、うれしい成果でした。（田原）